

令和元年6月15日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02280

研究課題名（和文）都市の表象 新印象派を中心に20世紀初期まで

研究課題名（英文）Representation of the City- focusing on Neo-Impressionism until the early 20th century

研究代表者

坂上 桂子（SAKAGAMI, KEIKO）

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：90386566

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究においては、これまであまり研究がされていない新印象主義のなかでもとりわけ都市の表象を多くてがけたマクシミリアン・リュスを研究し、論文としてまとめた。これに加え、19世紀から20世紀にかけてのパリ、ニューヨーク、東京、ソウルを中心とした都市をテーマとした作品を幅広く調査・研究し、一般向けの雑誌にその成果を発表した。

また国際シンポジウムや海外の研究者を招いての研究会を開催することができたのも成果である。ニューヨーク市立大学、ブリュッセル自由大学、アムステルダム国立美術館、韓国の漢陽大学、成均館大学から教員や学芸員を招聘し、意見交換をする場をもつことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新印象派の研究については、研究の少なかったマクシミリアン・リュスについてとりあげられた意義は大きい。とくに都市表象の研究においては、周辺の画家との関連から考察することで、より幅広い意味を持たせることができた。また、多様な都市表象の研究を、一般の人たちを対象とした雑誌に執筆できたことは、美術史研究の成果の社会還元として、意味があったと考える。

さらに、海外からの研究者の招聘によるシンポジウムや研究会の開催については、日本の研究者との学术交流の場として重要であっただけでなく、学生たちにも海外の研究者と意見交換する場を提供することとなり、とりわけ意義深いものであった。

研究成果の概要（英文）：In this study, among the Neo-Impressionist painters I studied about Maximilian Luce, who has not yet been studied so much, focusing on his representation of Paris. I wrote a paper about this. In addition, I researched a wide range of paintings, representing the 19th and 20th centuries in Paris, New York, Tokyo, and Seoul, and published articles about them.

I also had opportunities to held some international symposiums and workshops inviting researchers from overseas. I invited some professors from the City University of New York, the Free University of Brussels, the Hanyang University of Korea, and the Sungkyunkwan University of Korea, and also a curator from the Rijksmuseum and could exchange ideas with them.

研究分野：美術史

キーワード：都市 美術 パリ ニューヨーク 新印象派

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまで長年に渡って 19 世紀の印象派から新印象派にかけての、とりわけ、ベルト・モリゾ (Berthe Morisot 1841- 1895) やジョルジュ・スーラ (Geroges Seurat 1859-1891) を中心とした研究をしてきた (『ベルト・モリゾ ある女性画家の生きた近代』小学館 2006 年)、『ジョルジュ・スーラ 点描のモデルニテ』ブリュッケ 2014 年)。本研究は、19 世紀半ばから 20 世紀にかけてのこれらの画家たちの作品に都市を表象した作品が多いこと、また、作品の主題が都市生活とどれも密接に関連している点から、都市に着眼し、同時代のイメージについて考察しようとしたところから始まる。それによって、これまででもっぱらスーラ中心であった新印象派の研究を、スーラ以外の画家の研究へと展開すると同時に、近代都市の成立と人びとの関係について浮き彫りにしてみようとしたものである。

2. 研究の目的

19 世紀のパリでは、ナポレオン 3 世の統治下、セーヌ県知事オスマンによる綿密な都市計画のもと、近代的テクノロジーの導入によりインフラ整備が行われ、近代都市が成立をみた。人びとは、新たに創造された都市や都市生活をどのようにとらえ、受け止めていったのか。新印象派を中心に、19 世紀末から 20 世紀に至る絵画のなかに、「都市」の姿を見出すことを目的とした。その際、新印象派に焦点を当てながらも、前後の文脈を大切にし、とくに 20 世紀初頭からそれ以降、都市にかかわる表象がどのように展開していくか流れのなかでとらえることを基本とした。また、震災、復興、オリンピックといった現代の日本における都市の抱える問題とも常につなげつつ、現代的視野からこれらを検討することを目指した。

3. 研究の方法

研究の方法については、おもに以下の 3 点にまとめられる。

(1) 都市を主題にしたさまざまな作品の検討

できるかぎりたくさん都市を主題にした作品を考察することとした。すなわち、本研究の核となる 19 世紀末から 20 世紀初頭のフランス美術を中心としつつも、印象派と新印象派の狭い範囲のなかに留まるのではなく、大きな視野から都市表象全般を眺めることをまずは手がけた。その意図は、しばしば行われるアプローチ、つまり、画家ごと、時代ごと、様式ごと、といった範囲に区切った作品や作家研究から脱することにある。時代や地域を横断し、網羅的に多くをみることで、むしろ、新たな視点を得ようと試みた。具体的には、興味深いモチーフやテーマのありそうな作例を数多くとりあげ、1 点ずつ描かれている内容、要素について細かく検討していった。これをもって、都市表象研究の大きなひとつの核の基盤とした。

(2) マクシミリアン・リュスの研究

その上で、小さな核として、新印象派のなかでも都市の主題を多く取り上げているマクシミリアン・リュスに焦点を当て、この画家についての研究を行った。印象派から新印象派の画家たちと関わり、19 世紀から 20 世紀の世紀の転換の時代に、まさに近代都市形成の目撃者だったリュスの作品に、同時代の都市整備、都市生活を見出し、何を画家が表現しようとしたかを考察した。

(3) 他の研究分野を含む研究者コミュニティの形成

都市に関わる問題を多角的に考察するめに、ほかの研究者との交流および意見交換の場として、大学のプロジェクト研究所のひとつ「都市と美術研究所」を設置し、ここでの活動を展開した。その際、美術史学という狭い範囲ではなく他分野の研究者、たとえば、文学、思想、建

築、土木、社会学といった分野の研究者の研究にも触れ、意見交換することによって、これまでえられなかった着眼点などを見出せるよう試みた。具体的には、ワークショップやシンポジウムの開催によって、そうした場をなるべく多くつくることを試みた。

以上により、従来の美術史学の範囲に留まらず、学横断的、分野横断的な新しい都市表象の研究を模索した。

4. 研究成果

研究の成果については、おもに以下にまとめられる。

(1) 都市を表象した作品研究

都市を描いた多数の作品を調査・分析することで、多様な都市表象について理解を深めることができた。これらの成果は一般雑誌の記事にその都度、可能な限り反映させ、一般への還元をはかることができたのは、大きな成果と考える。

(2) 新印象派マクシミリアン・リュス研究

新印象派の画家については、とくにマクシミリアン・リュスについての研究を進め、リュスを通して、オスマンにより創造された近代都市パリについての表象の一端を見出すことができた。これについては、早稲田大学大学院文学研究科紀要において論文として発表した。

(3) 国際シンポジウム、国際フォーラム、研究会の開催

早稲田大学プロジェクト研究所のひとつとして『都市と美術研究所』を開設し、都市と美術に関わる研究者のコミュニティを形成、多角的な研究を目指した。ここでは、国際シンポジウムを年に1度のペースで開催し、国内はもとより、アメリカ・ニューヨーク市立大学、オランダ・アムステルダム国立美術館、韓国・漢陽大学からそれぞれ研究者の参加を得た。また、韓国・成均館大学と、東京とソウルで若手研究者によるフォーラムを年1度開催した。その他、都市と美術にかかわる問題について、多様な分野から内外の研究者を招き発表してもらい、意見交換を行う研究会や講演会を開催した。

(4) 展覧会の企画・開催

都市と美術をテーマとした展覧会を會津八一記念博物館において企画した。1回目はパリ、2回目はニューヨークをテーマにしたもので、ともに、これらの都市と日本人アーティストの関係を主題にしたものである。1回目のパリをテーマとした展覧会では、大学生をはじめ多くの入場者を得ることができ、一般の方々への還元ができたと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

坂上桂子、マクシミリアン・リュスとパリの表象、文学研究科紀要、査読有、第64号、pp.493-515 2019年 早稲田大学大学院文学研究科 ISSN2432-7344

https://www.waseda.jp/flas/glas/assets/uploads/2019/04/SAKAGAMI-Keiko_0493-0515.pdf

〔学会発表〕(計1件)

坂上桂子、木村利三郎の都市表象と9・11、国際シンポジウム 都市の災害とアート 9・11 / 3・11、早稲田大学プロジェクト研究所「都市と美術研究所」主催、早稲田大学総合研究機構共催、2017年3月10日、早稲田大学文学学術院

〔図書〕(計1件)

坂上桂子、早稲田大学會津八一記念博物館、パリから学んだ画家たち(展覧会図録) 70ページ、2017年(企画・編集・執筆)

〔その他〕

(雑誌記事)(計25件)

坂上桂子、フィンセント・ファン・ゴッホ《道路工夫》、ACE建設業界、2019年1月、pp.34-35

坂上桂子、ポール・デルヴォー《クリスマスの夜》、ACE建設業界、2018年12月、pp.36-37

坂上桂子、吉原治良《芦屋川の見える静物》、ACE建設業界、2018年10月、pp.36-37

坂上桂子、マクシミリアン・リュス《レオミュール通りの貫通》、ACE建設業界、2018年8月、pp.36-37

坂上桂子、山脇信徳《雨の夕》、ACE建設業界、2018年7月、pp.36-37

坂上桂子、ジョージ・ペローズ《橋、ブラックウェルズ島》、ACE建設業界、2018年6月、pp.34-35

坂上桂子、エドガー・ドガ《スタートの失敗》、ACE建設業界、2018年5月、pp.36-37

坂上桂子、アンリ・ル・シダネル《離れ屋》、ACE建設業界、2018年4月、pp.34-35

坂上桂子、岸田劉生《道路と土手と堀(切通之写生)》、ACE建設業界、2018年3月、pp.34-35

坂上桂子、エドゥアール・ヴエイヤール《ヴァンティミーユ広場》、ACE建設業界、2018年2月、pp.34-35

坂上桂子、杉浦非水《上野浅草間地下鉄》、ACE建設業界、2017年11月、pp.32-33

坂上桂子、ディエゴ・リベラ《凍結資産》、ACE建設業界、2017年10月、pp.36-37

坂上桂子、ロズ・ダイヤモンド《ペイル・メール》、ACE建設業界、2017年8月、pp.36-37

坂上桂子、ジョルジュ・スーラ《アニエールの水浴》、ACE建設業界、2017年7月、pp.36-37

坂上桂子、木村利三郎《City》、ACE建設業界、2017年6月、pp.34-35

坂上桂子、カミーユ・モネ《アルジャントユイユの鉄道橋》、ACE建設業界、2017年5月、pp.36-37

坂上桂子、チャイルド・ハッサム《ワシントン・アーチ》、ACE建設業界、2017年4月、pp.34-35

坂上桂子、マクシミリアン・リュス《ムフタル通り》、ACE建設業界、2017年3月、pp.36-37

坂上桂子、ウィリアム・グラッケンズ《セントラルパーク》、ACE建設業界、2017年2月、pp.34-37

坂上桂子、ポール・シニャック《パリの芸術橋》、ACE建設業界、2016年11月、pp.36-37

²¹坂上桂子、カンディンスキー《ムルナウ、鉄道と城》、ACE建設業界、2016年10月、pp.36-37

²²坂上桂子、フェルナン・レジェ《建設工事人たち》、ACE建設業界、2016年9月、pp.36-37

²³坂上桂子、古賀春江《海》、ACE建設業界、2016年7月、pp.36-37

²⁴坂上桂子、ルノワール《カナル・グランデ(大運河)》、ACE建設業界、2016年6月、pp.36-37

²⁵坂上桂子、フィンセント・ファン・ゴッホ《トンネルのある道》、ACE建設業界、2016年5月、pp.34-35

(国際シンポジウム/フォーラムの企画・開催)(計6件)

国際シンポジウム 都市と表象文化、2019年1月22日、早稲田大学

都市と美術フォーラム 成均館大学×早稲田大学(第3回)、2018年5月11日、早稲田大学

国際シンポジウム 美術館から都市へ 発信する美術館、2018年2月2日、早稲田大学

都市と美術フォーラム 成均館大学×早稲田大学(第2回)、2017年6月2日韓国・成均館大学

国際シンポジウム都市の災害とアート 9・11/3・11』2017年3月10日、早稲田大学文学

都市と美術フォーラム 成均館大学×早稲田大学(第1回)、2016年6月3日早稲田大学
(研究会の開催)(計12件)

第12回研究会、都市と美術研究所、2018年12月12日、早稲田大学文学学術院

第11回研究会、都市と美術研究所、2018年11月13日、早稲田大学會津八一記念博物館

第10回研究会、都市と美術研究所、2018年7月17日、早稲田大学文学学術院

第9回研究会、都市と美術研究所、2018年2月5日、早稲田大学文学学術院

第8回研究会、都市と美術研究所、2017年12月18日、早稲田大学理工学術院

第7回研究会、都市と美術研究所×ブリュッセル自由大学、2017年11月27日、ブリュッセル自由大学

第6回研究会、都市と美術研究所、2017年11月7日、早稲田大学文学学術院

第5回研究会、都市と美術研究所、2017年7月25日、早稲田大学文学学術院

第4回研究会、都市と美術研究所、2017年7月8日、早稲田大学會津八一記念博物館

第3回研究会、都市と美術研究所、2017年1月30日、早稲田大学文学学術院

第2回研究会、都市と美術研究所、2016年12月12日、早稲田大学文学学術院

第1回研究会、都市と美術研究所、2016年10月12日早稲田大学文学学術院

(展覧会の企画・監修)(計2件)

坂上桂子、ニューヨークに学んだ画家たち 木村利三郎を中心に、2019年6月27日-8月4日、早稲田大学會津八一記念博物館・開催予定

坂上桂子、パリから学んだ画家たち、2017年6月29日-8月6日、早稲田大学會津八一記念博物館

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。